



TITLE:

鎌倉先生をしのんで

AUTHOR(S):

吉田, 進

---

CITATION:

吉田, 進. 鎌倉先生をしのんで. 経済論叢 1969, 104(3): 210-212

ISSUE DATE:

1969-09

URL:

<https://doi.org/10.14989/133362>

RIGHT:

# 經濟論叢

第104巻 第3号

---

哀 辞

故鎌倉 昇教授遺影および原稿

|                      |         |    |
|----------------------|---------|----|
| 経営戦略について……………        | 田 杉 競   | 1  |
| ニュースと「企業性」の接点……………   | 島 崎 憲 一 | 23 |
| フィスカル・ポリシーと完全雇用…………… | 森 岡 孝 二 | 41 |

記 事

鎌倉教授逝く

追悼講演（石川常雄・市村真一・堀江保蔵）

追憶談（杉浦一平・吉田進・西村理・引馬滋）

故鎌倉昇教授略歴・著作目録

---

昭和44年9月

京 都 大 学 經 済 学 會

# 鎌倉先生をしのんで

吉 田 進

鎌倉先生ご逝去の知らせはあまりにも突然でありました。去る11日仁和寺でしめやかにとり行われた葬儀に参列させていただき、又本日学会葬で奥田総長をはじめ諸先生の弔辞を拝聴し、私自身卒業生を代表いたしまして追憶談を行うべくこの壇に立ちましたただ今でも、先生がお亡くなりになられたことが単なる悪夢であり、あのいつも活気にあふれた先生がひょっこり姿を現わされ「吉田君、元気にやっていますか。」とおっしゃるような気がしてならないのであります。

がっちりとした風格ある体つき、まるまるとして驚く程若く見えるお顔、きらきら輝く眼とそのうしろすばらしい速さで回転する頭脳、機関銃のように口からついて出る特徴ある言葉、そしていつも変らぬ誠実さと謙虚さ、それらの人格的資質と、洗練され蓄積された知識でもって私達を導き教えて下さった先生は私達のとどかない世界にあまりにも突然に旅立たれたのであります。

私が計量経済学に興味をもち講義の他に、先生のご指導を迎うことになりましたのは、先生が国際連合経済調査官を務められた後帰国され、鎌倉ゼミナールが発足したときであります。先生を囲んでのゼミナールの時間、あるいは講義の時間、先生の快刀乱麻を断つような平易明解な説明からうかがわれます明晰な頭脳の働き、あらゆる問題についての深い知識に感服し続けました。講義にしろ講演にしろ一步一步重い荷物を背負って登るというよりもむしろ、峰から峰へと天馬が飛び回るように楽々と分析しまとめられ聞く人に感銘を与え、気持を引立たせ、話が終ってから自分達はこの刻々変化する社会で何か役に立つことをやりつつあるのだという印象を学生に与えずにはおかぬ先生であり

ました。そして単なる英才でなく勇氣と意志をもち真摯なる研究者であり、親切に学生の世話をされた先生は家庭ではよきパパでありました。スタンフォード大学に3年間の留学、国際連合に経済調査官として3年間、都合6年間海外に滞在された先生は英語もきわめて堪能で、国際感覚が豊かであられましたのはあまねく知られていたとおりであります。私自身先生の英語の講演を聞いたアメリカ人の学者から鎌倉先生程流暢に英語を話す人を知らないと言われたのを記憶いたしております。少し以前になりますが、日本経済研究センター主催によるオックスフォード大学のハロッド教授および最近のパティンキン教授の講演会に通訳された先生は、ほとんどメモを取らずに、原稿も読まれることなしに平易明解な日本語に訳されましたのには、驚嘆させられたのであります。先生が通訳されますと講演者は上機嫌であったということでもありますし、場合によりましては、講演者よりも鎌倉先生の方がより明確にわかり易く話され敏感な講演者から感謝されたという逸話が残っているくらいであります。勿論こうしたことがお出来になったのは、単に英語が堪能であるばかりでなく、経済学を真に理解されていたからであります。先生は英語を何の苦勞もなく習得されたと思っていたのですが、ある時先生を囲んで親しい友人達と談笑しておりました時、先生は次のようなエピソードを託されました。先生が大阪の天王寺商業高校時代英語が不得意な生徒であり、しかも1年の時落第しそうになったということです。しかしその時、受持ちの英語の先生から寄び出され、次の年まで無利子無担保で試験の点数を借りて、2学年に進級されたというお話です。「わらをも掴む気持ちでした。」と先生は笑っておっしゃいました。2学年になって先生がちゃんと借りた点数を返されたのは勿論であります。鎌倉先生自身その英語担当の先生の配慮に非常に恩義を感じていられたに相異なく、あの時もしその英語の先生が鎌倉先生の素質を見通すことが出来なかったとしたら、先生はまったく別の人生を歩まれたかもしれません。先生は私達に対しまして、批判し指導する立場にある人は若い研究者を常に励げさなければいけない。そして若くて感受性の強い人の成長の芽をつみとってしまうことのないように心懸けねばいけないとおっしゃいましたが、こういう思いやりも先生のこの体験が関与しているのかもしれない。

さて、私は先生のきわだった特徴は多面性であると思ってまいりました。事実先生に接し、お話をおうかがいした時のことを憶い出してみますと、先生の中には、諸々の資質が調和がとれて組合わされていたことに強い印象を受け続けたことが頭に浮びます。物事のメカニズムを洞察する直観と一瞬のうちに、漠然とした全体から問題の核心を把握し整理する知的能力、現実の混沌とした社会事象に対する広範な興味、歴史への深い造詣、人間性への理解と制度への関心、経済社会にあるもので先生の興味の対象にならなかったものはなかったのであります。この本性の故に、自己整合的であっても単なる

抽象論で満足されず常に事実に基づいて考えるという「理論と実際の架橋」への努力をされ、学者のひとりよがり避け、又自らは世俗的になることなく広く経済界の人々と現実問題について意見を交換されました。そして各界から広く深く覬迎され教を乞われたのもきわめて内攻的であると同時に外攻的な性格を持たれた先生の天性によりはじめて出来ることであったと思います。要するに、先生は才気縦横で、感受性強く、率直でさわやかな性格に表わされる知的能力と人格の調和がとれ、それ故に実に多くの人達から「先生」あるいは「鎌倉君」と尊敬され頼りにされ、激しく変動する社会でご活躍が期待されていた矢先急逝されたのは本当に大きな損失であります。

私達は学生時代、それから卒業してからの数年間、時には親しく、時には先生の著作を通じ、新聞、ラジオ、テレビ、雑誌を通じ、又友達伝えにお教えたいただいた先生のお教を實踐し、社会発展に微力ながら尽したいと決心いたしております。思い出はつきないのですが、深い感謝を込めてここで終らせていただきます。ありがとうございます。